

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free

1. ☐ 1/5/1

012108528

WPI Acc No: 1998-525440/199845

XRAM Acc No: C98-158017

Aromatic composition for treating hair - comprises hydrogen peroxide and aromatic compound stable against hydrogen peroxide

Patent Assignee: OGAWA KORYO KK (OGAW-N); SUNSTAR CHEM IND CO LTD (SUNZ)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10231234	A	19980902	JP 9737526	A	19970221	199845 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9737526 A 19970221

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 10231234	A		8	A61K-007/06	

Abstract (Basic): JP 10231234 A

Aromatic composition for treating hair, comprises hydrogen peroxide and aromatic compound stable against hydrogen peroxide, the composition having pH of 1.5 to 5.

ADVANTAGE - Aroma can be kept for a long time.

Dwg. 0/0

Title Terms: AROMATIC; COMPOSITION; TREAT; HAIR; COMPRISE; HYDROGEN; PEROXIDE; AROMATIC; COMPOUND; STABILISED; HYDROGEN; PEROXIDE

Derwent Class: D21; E14; E17; E36

International Patent Class (Main): A61K-007/06

International Patent Class (Additional): A61K-007/13; A61K-007/46;

C01B-015/01

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free

© 2002 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-231234

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月2日

(51) Int. Cl. ⁶

識別記号

F I

A61K 7/06

A61K 7/06

7/13

7/13

// A61K 7/46

7/46

Z

C01B 15/01

C01B 15/01

(B)20201020278



審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全8頁)

(21) 出願番号

特願平9-37526

(22) 出願日

平成9年(1997) 2月21日

(71) 出願人 591011410

小川香料株式会社

東京都中央区日本橋本町4丁目1番11号

(71) 出願人 000106324

サンスター株式会社

大阪府高槻市朝日町3番1号

(72) 発明者 平山 潔

千葉県八千代市八千代台西9-23 ドエル

八千代台2-205

(72) 発明者 宍戸 義明

埼玉県川口市安行領根岸2813-2

(74) 代理人 弁理士 青山 葆 (外1名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 芳香性毛髪処理剤組成物

(57) 【要約】

【課題】 組成物中に過酸化水素を含有しても、長期にわたって安定な芳香性を有する毛髪処理剤組成物を提供する。

【解決手段】 過酸化水素と特定の単品香料および／または調合香料とを含有し、特定のpH域である毛髪処理剤組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (1) 過酸化水素と、(2) 過酸化水素に安定な香気性化合物から選ばれた1種または2種以上の単品香料あるいは調合香料とを含有し、pHが1.5～5であることを特徴とする毛髪処理剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、頭髪用染毛剤などに用いられる、過酸化水素および特定の香気性化合物を含有する毛髪処理剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物は酸化力に優れ、メラニン色素を分解させる脱色効果も合わせて有していることから、例えば、酸化染毛剤、脱色剤、脱染剤としてその有用性が知られている。一方、通常の毛髪処理剤組成物は原料臭をカバーし、また嗜好性を高めるために香料を配合しており、芳香を有している。しかし、通常用いられる香料を過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物に配合した場合、過酸化水素によって分解され、経日で芳香を失ったり、あるいは悪臭を放つたりするようになり、安定性が悪いという問題があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、過酸化水素を配合し、染毛または脱色効果に優れ、しかも、経日で製剤中において安定な芳香を有する毛髪処理剤組成物を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、かかる毛髪処理剤組成物を得るため、鋭意検討を重ねた結果、過酸化水素および特定の過酸化水素に安定な香気性化合物を配合することにより、所望の性質を有する組成物が得られ、前記課題を解決できることを見出し、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、(1) 過酸化水素と、(2) 過酸化水素に安定な香気性化合物から選ばれた1種または2種以上の単品香料あるいは調合香料とを含有し、pHが1.5～5であることを特徴とする毛髪処理剤組成物を提供するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】通常用いられる香料を過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物に配合した場合、経時で安定な芳香を得ることは不可能である。本発明の毛髪処理剤組成物において、特定の香気性化合物を配合した場合、過酸化水素を含有し、しかも、経日で芳香を損なうことがない安定な薬剤を得ることが可能である。

【0006】本発明で用いる過酸化水素は、例えば、酸化染毛剤においては、メラニンを分解して毛髪を脱色させるとともに、毛髪中に浸透した酸化染料を重合させる酸化作用を有し、通常の化粧品原料として用いられるものである。この過酸化水素は、目的とする効果を奏する

量適宜含まれるが、通常組成物全量に対して、0.1～6重量%含まれる。

【0007】本発明で用いる香気性化合物は、過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物中において経日で過酸化水素の安定性を損なわず、かつ香料の構造自体およびその芳香も著しく変化しない安定なものを慎重に選択する必要がある。また、実際の製剤化の上では、このようにして選択された香気性化合物の中から、嗜好性に合わせて芳香性を考慮し、数種類を組み合わせる調合香料とする場合が多い。これらの香気性化合物としては、例えば、フェニルアセトアルデヒド ジメチル アセタール、2,6-ジメチル-2-ヘプタノール、3-メチル-5-フェニル-1-ペンタノール、2-(5,6,6-トリメチル-2-ノルボルニル)-シクロヘキサノール、3,7-ジメチルオクタン-3-オール、2,6-ジメチル-2-オクタノール、3,7-ジメチルオクタン-3-オールと2,6-ジメチルオクタン-2-オールの混合物、2-メチルウンデカノール、2-ベンチル-3-フェニル-2-プロパノール、4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルブアルデヒド、フェニルアセトアルデヒド、1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロペンタ-2-ベンゾピラン、ジフェニル エーテル、アリル 2-(2-メチルブチロキシ)アセテートとアリル 2-(3-メチルブチロキシ)アセテートの混合物、エチル イソ-ブチレート、メチル 2-オクチノエート、イソボルニル アセテート、メチル 2-ノニノエート、セドリル メチル ケトン、4-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン、ヘキサヒドロ-1,1,5,5-テトラメチル-2H-2,4A-メタナフタレン-8-オン、6-アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラリン、 γ -デカラクトン、 γ -ウンデカラクトン、2-メトキシ-4-アリルフェノール、n-デシルアルデヒド、n-オクチルアルデヒド、2-メチル-3-(4-イソ-プロピルフェニル)プロパノール、2-ヘキシル-3-フェニル-2-プロパノール、3 α ,6,6,9 α -テトラメチルデカヒドロナフト[2,1-b]フラン、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-イル アセテート、メチル (3-オキソ-2-ベンチルシクロペンチル)アセテート、3 α ,4,5,6,7,7 α -ヘキサヒドロ-4,7-メタノインデン-5(または6)-イルアセテート、1-フェニルエチル アセテート、1-(2,6,6-トリメチル-1,3-シクロヘキサジエン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-

2-オン、7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-
 オクタヒドロ-1,1,6,7-テトラメチルナフタレ
 ン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン
 -1-イル)-3-メチル-3-ブテン-2-オン、2-
 フェニルエチル アルコール、2H-1-ベンゾピラ
 ン-2-オン、2,3-ベンゾピロール、cis-3-
ヘキセノール、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-
オール、2,6-ジメチル-7-オクテン-2-オ-
ール、3,7-ジメチル-trans-2,6-オクタジエ
ン-1-オール、3,7-ジメチル-1,6-オクタジエ
ン-3-オール、1-p-メンタン-8-オール、n-
 ウンデシルアルデヒド、10-ウンデセン-1-ア-
 ール、n-ドデシルアルデヒド、n-ノニルアルデヒド、
 2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシ-フェニル)
 プロパナール、2,4-ジメチル-3-シクロヘ
 キセン-1-カルブアルデヒド、2-メチル-3-(4-
 -tert-ブチルフェニル) プロパナール、4-ヒ
 ドロキシ-3-メトキシベンズアルデヒド、ベンジル
 アセテート、cis-3-ヘキセニル アセテート、1-
 フェニル-2-メチル-2-プロピル アセテート、
 エチル ブチレート、3a,4,5,6,7,7a-ヘキサ
 ヒドロ-4,7-メタノインデン-5 (または6) -イ
 ル プロピオネート、3,7-ジメチル-1,6-オクタ
 ジエン-3-イル アセテートから選ばれる1種または
 2種以上であるが、その中でも、フェニルアセトアルデ
 ヒド ジメチル アセタール、2,6-ジメチル-2-
 ヘプタノール、3-メチル-5-フェニル-1-ペンタ
 ノール、2-(5,6,6-トリメチル-2-ノルボルニ
 ル)-シクロヘキサノール、3,7-ジメチルオクタン
 -3-オール、2,6-ジメチル-2-オクタノール、
 3,7-ジメチルオクタン-3-オールと2,6-ジメチ
 ルオクタン-2-オールの混合物、2-メチルウンデカ
 ナール、2-ベンチル-3-フェニル-2-プロパナ-
 ール、4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ペンチル)-
 3-シクロヘキセン-1-カルブアルデヒド、フェニル
 アセトアルデヒド、1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ
 -4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロペンター
 -2-ベンゾピラン、ジフェニル エーテル、アリル
 2-(2-メチルブチロキシ) アセテートとアリル 2-
 (3-メチルブチロキシ) アセテートの混合物、エチ
 ル イソ-ブチレート、メチル 2-オクチノエート、
 イソ ボルニル アセテート、メチル 2-ノニノエ-
 ート、セドリル メチル ケトン、4-(2,6,6-トリ
 メチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン
 -2-オン、ヘキサヒドロ-1,1,5,5-テトラメチ
 ル-2H-2,4A-メタノナフタレン-8-オン、6-
 -アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラ
 リン、 γ -デカラクトン、 γ -ウンデカラクトン、2-
 メトキシ-4-アリルフェノール、n-デシルアルデヒ
 ド、n-オクチルアルデヒド、2-メチル-3-(4-

イソ-プロピルフェニル) プロパナール、2-ヘキシ
 ル-3-フェニル-2-プロパナール、3 α ,6,6,9
 α -テトラメチルドデカヒドロナフト[2,1-b]フラ
 ン、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-イル アセ
 テート、メチル (3-オキソ-2-ベンチルシクロペ
 ンチル) アセテート、3a,4,5,6,7,7a-ヘキ
 サヒドロ-4,7-メタノインデン-5 (または6) -
 イル アセテート、1-フェニルエチル アセテート、
 1-(2,6,6-トリメチル-1,3-シクロヘキサジ
 エン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,
 6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)
 -2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル
 -1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-
 オン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセ
 ン-1-イル)-3-ブテン-2-オン、7-アセチル
 -1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロ-1,1,6,
 7-テトラメチルナフタレン、4-(2,6,6-トリメ
 チル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-メチル-
 3-ブテン-2-オン、2-フェニルエチル アルコー
 ル、2H-1-ベンゾピラン-2-オン、2,3-ベン
 ゾピロールが好ましい。

【0008】このようにして選ばれた香気性化合物から
 なる単品香料あるいは調合香料の配合量としては、芳香
 性の点から、組成物全量に対して0.001~6重量%
 の範囲で用いることが好ましく、0.01~1重量%が
 特に好ましい。また、香調や嗜好性に合わせて、安定性
 を損なわない限り、上記以外の香料を組み合わせてもよ
 い。

【0009】本発明の毛髪処理剤組成物のpHは、1.
 5~5、好ましくは2.5~4.5であり、該pHが1.
 5未満であると皮膚刺激などの安全性より、5を超え
 ると過酸化水素の安定性が悪くなることより好ましくな
 い。該組成物を好適なpHに調整するには酸を用いる。
 この酸としては、例えば、塩酸、硫酸、リン酸、硝酸等
 の無機酸、あるいは、酢酸、クエン酸、酒石酸、プロピ
 オン酸、乳酸、サリチル酸、グリコール酸、コハク酸、
 リンゴ酸、酪酸等の有機酸等が挙げられ、このうちの1
 種または2種以上を任意に用いることができ、中でも塩
 酸、硫酸、リン酸、酢酸、プロピオン酸、乳酸、サリチ
 ル酸、グリコール酸、コハク酸が好ましく、特に、リン
 酸、乳酸、酢酸、グリコール酸は染毛性を顕著に向上さ
 せるため好ましい。また、これらの酸のアルカリ金属塩
 等、例えばクエン酸ナトリウム、水酸化ナトリウム、リ
 ン酸水素二ナトリウム、水酸化カリウム等を組合せるこ
 とにより、好適なpHの範囲内にpH緩衝能をもたせる
 こともできる。

【0010】本発明の組成物は、ジェル状、ペースト
 状、クリーム状など種々の形態にすることができ、それ
 ぞれの形態に応じて本発明の効果を損なわない範囲で、
 例えば、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、非

イオン界面活性剤、両性界面活性剤等の界面活性剤；芳香族アルコール、高級アルコール、多価アルコール、高級脂肪酸、パラフィンワックス、炭化水素油、エステル油、シリコン油等の油剤；揮発性溶剤、高分子、防腐剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、金属キレート剤および染料等の公知の化粧品成分を適宜配合し、自体公知の製法で、例えば、酸化染毛料、脱色料、脱染料、酸化染毛料とすることができる。

【0011】本発明の毛髪処理剤組成物を使用するには、通常、毛髪に適量を適用した後、シャンプー等で洗髪するか、または自然乾燥やドライヤー等で乾燥させて使用する。特に、本発明の組成物は、その適用前、適用時または適用後のいずれかで、毛髪に加温処理を施すと、その脱色性、染毛性がより向上するので好ましい。この加温処理例として、本発明の組成物を毛髪に塗布した後、例えば、スチーマー、蒸しタオルなどの蒸気、ドライヤーの温風、遠赤外線などの熱で塗布部を加温し、ついで、余分な組成物を洗い流すか、洗い流さないでそのまま乾燥させることにより行うことができる。加温処理は、通常、40～90℃、30秒～30分が適当である。また、加温した組成物を適用することによっても同様な効果が得られる。

【0012】

【実施例】以下に実験例を挙げて本発明をさらに詳しく説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。また、実施例中の「%」は特に断わらない限り重量%を意味する。

【0013】実施例1の成分からジェル状の毛髪処理剤組成物を製造し、以下の方法で種々評価した。

【0014】実施例1

ジェル状酸性染毛料

成分	配合量 (%)
黒色401号	0.5
ベンジルアルコール	5
キサンタンガム	3
エタノール	5
過酸化水素	4
フェナセチン	0.5
pH調整剤	適量
香料成分	0.1
精製水	残部
合計	100.00
pH	3.0

実施例1を香料成分として香気性化合物から選択し、処方に従って調製した後、下記に示す方法で評価した。

【0015】実験例1

香料安定性試験

各香料成分を用いて実施例1を調製し、それを3つに分け、30mlガラスビンに入れ、それぞれ室温、50℃、5℃恒温槽にそれぞれ保存し、12週後に取り出して、室温に戻し、変臭を官能試験で調べた。官能試験は専門調香士が実施した。評価基準を下に示す。

◎：調製直後の芳香とほぼ変化なし

○：調製直後の芳香と比較してやや変臭した

×：調製直後の芳香と比較して、変臭あるいは退臭したその結果を表1～4に示す。

【0016】

【表1】

香気性化合物	安定性評価
フェニルアセトアルデヒド ジメチル アセタール	◎
2,6-ジメチル-2-ヘプタノール	◎
3-メチル-5-フェニル-1-ペンタノール	◎
2-(5,6,6-トリメチル-2-ノルボルニル)-シクロヘキサノール	◎
3,7-ジメチルオクタノ-3-オール	◎
2,6-ジメチル-2-オクタノール	◎
3,7-ジメチルオクタノ-3-オールと2,6-ジメチルオクタノ-2-オールの混合物	◎
2-メチルウンデカノール	◎
2-ペンチル-3-フェニル-2-プロパノール	◎
4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボアルデヒド	◎
フェニルアセトアルデヒド	◎
1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8-ヘキサメチルシクロペンタ-γ-2-ペンツビラン	◎
ジフェニル エーテル	◎
アリル 2-(2-メチルプロピロキシ)アセートとアリル 2-(3-メチルプロピロキシ)アセートの混合物	◎
エチル イソブチレート	◎
メチル 2-オクタノエート	◎
イソボルニル アセート	◎
メチル 2-ノニエート	◎
セトリル メチル ケトン	◎

【0017】

【表2】

香気性化合物	安定性評価
4-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン	◎
ヘキサヒドロー-1,1,5,5-テトラメチル-2H-2,4A-メタナフタレン-8-オン	◎
6-アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラリン	◎
γ-デカラクトン	◎
γ-ウンデカラクトン	◎
2-メトキシ-4-アリルフェニル	◎
n-デシルアルデヒド	◎
n-オクタールアルデヒド	◎
2-メチル-3-(4-イソブチルフェニル)プロパノール	◎
2-ヘキシル-3-フェニル-2-ブチノール	◎
3α,6,6,9α-テトラメチル-7-カビトロン-2(1-b)フラン	◎
3,7-ジメチル-6-オクタエン-1-イル アセテート	◎
メチル (3-オキソ-2-ペンチルシクロヘキシル) アセテート	◎
3a,4,5,6,7,7a-ヘキサヒドロー-4,7-メタノインテン-5(または6)-イル アセテート	◎
1-フェニルエチル アセテート	◎
1-(2,6,6-トリメチル-1,3-シクロヘキサジエン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	◎
1-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	◎
1-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	◎
4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン	◎
7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロー-1,1,6,7-テトラメチルナフタレン	◎

【0018】

【表3】

香気性化合物	安定性評価
4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-メチル-3-ブテン-2-オン	◎
2-フェニルエチル アルコール	◎
2H-1-ベンゾビラゾ-2-オン	◎
2,3-ベンゾビロール	◎
cis-3-ヘキセノール	◎
3,7-ジメチル-6-オクタエン-1-オール	◎
2,6-ジメチル-7-オクタエン-2-オール	◎
3,7-ジメチル-trans-2,6-オクタジエン-1-オール	◎
3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール	◎
1-p-メンタン-8-オール	◎
n-ウンデシルアルデヒド	◎
10-ウンデセン-1-オール	◎
n-ドデシルアルデヒド	◎
n-ノニルアルデヒド	◎
2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシフェニル)プロパノール	◎
2,4-ジメチル-3-シクロヘキセン-1-カルブアルデヒド	◎
2-メチル-3-(4-tert-ブチルフェニル)プロパノール	◎
4-ヒドロキシ-3-メトキシベンズアルデヒド	◎
ベンジル アセテート	◎
cis-3-ヘキセニル アセテート	◎

【0019】

【表4】

香気性化合物	安定性評価
1-フェニル-2-メチル-2-プロピル アセート	○
エチル プロパレート	○
3a, 4, 5, 6, 7, 7a-ヘキサヒドロ-4, 7-メタノインテン-5 (または6)-イル プロピオネート	○
3, 7-ジメチル-1, 6-オクタジエン-3-イル アセート	○
7-ヒドロキシ-2-エチル-β-フェニルエチル アセート	×
9-デセノール	×
1, 4-エポキシ-p-メンタン	×
エチル-3-メチル-3-フェニルグリシレート	×
1, 8-p-メンタジエン-6-オン	×
p-メンタン-8-チオール-3-オン	×
トデカン ニトリル	×
γ-ノナラクトン	×
n-メチル-フェニル-2-メチル プロパミド	×
2, 2-ジメチル-3-メチレン-ビシクロ [2. 2. 1] -ヘプタン	×

【0020】表1～4に示すとおり、本発明品で用いることのできる香気性化合物は香料安定性評価が◎あるいは

は○であり、安定で優れていることが確認できた。

【0021】実施例2

クリーム状酸性染毛料

成分	配合量 (%)
橙色205号	0.50
黒色401号	0.20
2-フェニルエチルアルコール	9.00
プロピレングリコール	5.00
エタノール	25.00
セトステアリルアルコール	5.00
ポリオキシエチレン (2EO)	2.00
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	
高分子量ジメチルポリシロキサン	0.80
ジメチルポリシロキサン	2.80
ポリオキシエチレン (3EO)	
ステアリルエーテル	1.00
グリコール酸	1.50
ヒドロキシエチルメチルセルロース	1.10
すず酸ナトリウム	0.05
過酸化水素水 (純分3.5%)	10.00
フェニルアセトアルデヒド	
ジメチル アセタール	0.20
精製水	残部
合計	100.00
pH	4.0

この処方に従って前記の製法によりクリーム状酸性染毛料を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有するこ

とが確認できた。

【0022】実施例3

ジェル状酸性染毛料

成分	配合量 (%)
黄色4号	0.25
黄色203号	0.25
橙色205号	0.25
ベンジルアルコール	6.00

11	
グリセリン	1.00
ジグリセリン	0.50
エタノール	18.00
メチルセルロース	2.00
リン酸	0.50
キサンタンガム	1.00
フェナセチン	0.10
過酸化水素水 (35%)	10.00
2,6-ジメチル-2-ヘプタノール	0.20
フェニルアセトアルデヒド	0.15
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	4.3

この処方に従って前記の製法によりクリーム状酸性染毛料を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有するこ

とが確認できた。

【0023】実施例4

2 剤式染毛剤

成 分

(1 剤)	配合量 (%)
パラフェニレンジアミン	0.20
レゾルシン	0.20
アンモニア水 (28%)	5.80
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.80
ポリオキシエチレンノニル	0.90
フェニルエーテル (6 E. O.)	
オレイルアルコール	2.00
精製水	残 部
合計	100.00
pH	9.7
(2 剤)	
プロピレングリコール	5.00
エタノール	2.00
フェナセチン	0.10
クエン酸	適 量
過酸化水素水 (35%)	17.00
ジフェニル エーテル	0.20
セドリル メチル ケトン	0.80
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	3.5

この処方に従って前記の製法により2 剤式染毛剤を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有することが確認

できた。

【0024】実施例5

1 剤式脱色剤

成 分

	配合量 (%)
フェナセチン	0.10
オキシベンゾン	0.01
リン酸	適 量
過酸化水素水 (35%)	10.00
γ-ウンデカラクトン	1.00

13	
2-メチル-3-(4-イソ プロピルフェニル)プロパナール	0.20
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	2.5

この処方に従って前記の製法により1剤式脱色剤を調製し、ガラス容器に充填し、放置したところ、調製後も長

期にわたって安定な芳香を有することが確認できた。

【0025】実施例6

2剤式脱色剤

成 分	配合量 (%)
(1剤)	
アンモニア水 (28%)	7.00
ポリオキシエチレンノニルフェニル エーテル (10 E.O.)	0.50
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.20
プロピレングリコール	6.00
エデト酸二ナトリウム	0.05
エタノール	2.00
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	10.2
(2剤)	
過酸化水素水 (35%)	17.00
セタノール	0.50
フェナセチン	0.04
塩化ジステアリルジメチルアンモニウム	1.00
リン酸	適 量
7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ 1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン	1.00
2, 3-ベンゾピロール	0.20
2, 6-ジメチル-7-オクテン- 2-オール	0.10
n-ノニルアルデヒド	0.01
1-フェニル-2-メチル- 2-プロピル アセテート	0.20
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	3.0

この処方に従って前記の製法により2剤式脱色剤を調製し、ガラス容器に充填し、放置したところ、調製後も長
期にわたって安定な芳香を有することが確認できた。

【発明の効果】本発明によれば、過酸化水素を含有し、
染色または脱色効果に優れ、経日で安定な芳香を有する
毛髪処理剤組成物を提供できる。

【0026】

フロントページの続き

(72)発明者 梶 真理子
大阪府高槻市上土室2-10-1

(72)発明者 長野 真砂
東京都大田区久が原3-33-14-301

(72)発明者 福増 章夫
滋賀県大津市日吉台3丁目11-6